

アクションプラン改訂WGにおける検討状況について

1. 目的

- ・「小笠原諸島生態系保全アクションプラン」は、小笠原諸島の自然環境の保全・管理に関する全体計画である「管理計画」を補完するものとして、2010年（平成22年）1月に策定されたものである。
- ・このアクションプランでは、生態系保全のための取組について、島別、種別に、短期目標、推進主体の役割分担、取組の内容やスケジュール等を定めている。
- ・同アクションプランに記載された短期目標等は、平成24年度末までとなっているが、この間にも諸島内の生態系を取り巻く状況は激しく変化している。
- ・そのため、科学委員会の下に本WGを設置しこれまでの対策の実施状況や最新の科学的知見を踏まえての改定作業を行う。
- ・本WGでは、平成25年度以降の「第2期小笠原諸島生態系保全アクションプラン」を策定することを目的とした、課題のとりまとめを行う。

2. ワーキンググループの概要

名 称	小笠原諸島生態系保全アクションプランの改訂に関する ワーキンググループ
設置期間	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年10月～平成25年度8月頃 ・平成24年度に1回、25年度に2回程度（計3回程度開催）
管理機関	環境省、林野庁、東京都、小笠原村
メンバー (★：座長)	阿部 宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事（自然公園） 石井 信夫 東京女子大学 現代教養学部 教授（ほ乳類） 苅部 治紀 神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員（昆虫） 川上 和人 森林総合研究所 鳥獣生態研究室 主任研究員（鳥類） ★清水 善和 駒澤大学 総合教育研究部 教授（植物） 田中 信行 森林総合研究所 物質生産研究室 主任研究員（植物） 千葉 聡 東北大学大学院 生命科学研究科 准教授（陸産貝類） （ ）内は専門分野

（敬称略・五十音順）

3. 検討の進め方

①【情報の整理・検討】

- ・第1期（2010-2012）の「小笠原諸島生態系保全アクションプラン」に基づいて各関係機関で実施してきたそれぞれの対策について、これまでの対策内容・手法・事後モニタリング結果等を、「第1期アクションプランの取組実績」として整理する。
- ・平成24年度末までの短期目標に照らした結果の検証を行うとともに、諸島内における生態系の激しい変化への対応するための、取組の優先順位の付け方や見直し方等、機敏で順応的な管理に関する課題を整理する。

②【改定作業】

- ・本ワーキンググループにおける検討結果に基づいて、平成25年度から29年度末までの5年間の「第2期小笠原諸島生態系保全アクションプラン」を策定する。
- ・特に保全対象種については、現行アクションプランで示されている重要度区分（保全優先度が高い固有種、固有種、在来種）が世界自然遺産への登録手続き上の凡例区分であったため、種の保全の観点から見直しを行う予定である。
- ・本検討は、平成24年度末までの取り組み結果（モニタリングデータ等）も踏まえ、それらのデータが出揃う25年度早期の完了を目指す。
- ・「第2期小笠原諸島生態系保全アクションプラン」の枠組みは、第1期を踏襲し、島別、種別に、5年間の短期目標、推進主体の役割分担、取組の内容やスケジュール等を定めるものと位置づける。
- ・一方、機敏で順応的な管理のあり方については、諸島内における生態系の激しい変化に、よりきめ細かく機敏に対応するため、アクションプランの枠組みを改善し、最新の状況を踏まえた議論が随時できる場の位置けを明示する。
〔新たに生じた課題別、または、まとまった地域別の検討の場（例：東平に関する検討会や南島に関する検討委員会のような検討の場）〕。
- ・なお、本WGの検討は、別途科学委員会のもとに実施される「種間相互作用WG」や「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するWG」の議論と連携して実施していくものとし、また別途開催されている近年の生態系変化に関わる専門家間の「意見交換会」での結果もあわせて参考とする。

③【スケジュール】

